

桁びき網*によるヤナギムシガレイ資源調査

9月1日から始まる底びき網漁業で水揚げされるヤナギムシガレイは通称「ささがれい」と呼ばれ、高級干物などに利用される重要な資源ですが、近年、漁獲量が減少しています。

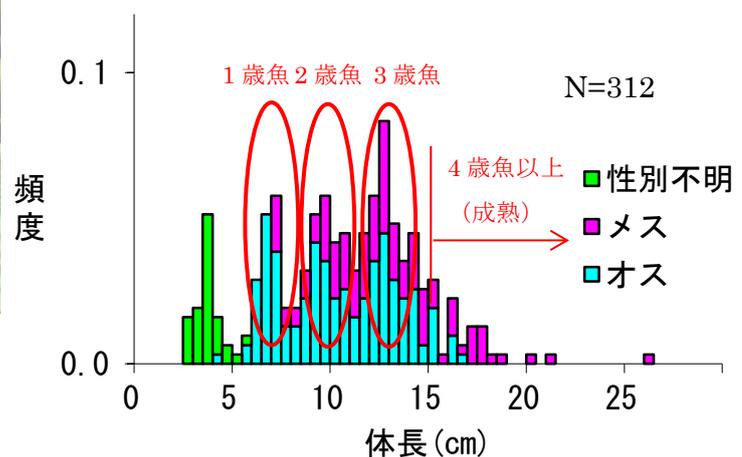
そこで、当センターではヤナギムシガレイの資源量を推定し、将来予測を行うために、海洋調査船平安丸の桁びき網操業による漁期前の資源調査を行っています。

7月に実施した調査では、3歳魚以下のカレイが高い割合で生息していることが分かりました。ヤナギムシガレイは4歳で成熟するため、3歳魚以下の未成熟の小型カレイは、保護することが重要です。引き続き、漁業者に対する網目拡大などの資源管理の普及啓発や生息状況のモニタリングに努めます。

※桁びき網：鉄枠（桁）に漁網を取り付けた漁具の一種。平安丸で使う桁は幅約8.5mで網の高さは1.7m、長さは約30mに及ぶ。これを海底まで降ろし、一定速度で曳くことにより海底近くにいる生物を漁獲する。



桁びき網の採集物からヤナギムシガレイのみを抜き出して測定を行う



測定結果に基づく体長組成図